



# 神奈川支部報

神奈川支部報 第 17 号

発行日：2021 年 1 月 1 日

発行者：込田伸夫

発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部

横浜市青葉区若草台 2-58 込田方



妙高山（袴岳から）

## 新年のご挨拶

神奈川支部長 込田伸夫

日本山岳会神奈川支部の皆様、新年おめでとうございます。

さてこの1年を振り返ってみますと、2020年はまさに新型コロナ感染に翻弄された年といえるでしょう。神奈川支部においても、予定していた神奈川山岳誌山行は2月以降中止が相次ぎ、2月末に箱根仙石原での猪熊氏による観天望気の講習会や、4月横浜での自然観察会、5月末から6月にかけてのアメリカ・オレゴンツアーなども残念ながらすべて中止せざるを得ませんでした。また役員会にしてもオンライン会議を行うなど、従来とは異なる形式への変更を余儀なくされました。5月に神奈川大学で開催予定だった支部総会、ならびに公開イベントにつきましても、コロナ感染状況から書面での開催という異例の事態となりました。さらに神奈川支部主催となる10月末の南関東3支部合同懇親山行も、今年に延期されることになりました。

昨年9月からは、いわゆる「3蜜」を避けて限定された人数、マスク着用などの感染対策を十分したうえで支部山行がようやく開始されましたが、東京や神奈川など首都圏でもコロナ感染者が増加の一途を続ける現状に鑑みて、1月の山行後に行われていた恒例の新年会は中止を決定いたしました。

以上のように2020年はコロナ禍により支部の活動は大きな影響を受けましたが、2021年は日本山岳会120周年記念事業企画の一環として、山岳古道調査等も開始される予定となっております。会員の皆様のご協力を賜りながら、支部の様々な活動を通じて皆様と共により充実した山を楽しむ支部にしていきたいと考えております。そして一日も早くコロナが終息し、今までのような日常生活を送ることができることを切に願うばかりです。

最後になりましたが新しい年が神奈川支部の皆様にとりまして、実り豊かな年になりますことを心より祈念いたします。

## 丹沢おぼえがき（9）

### －明治・大正期の登山事情（その1）－

砂田 定夫

前号まで丹沢における早期近代登山の様子をややつぶさに見てきたが、ここでこの時代における登山の背景を整理してみよう。

#### ①丹沢の知名度

武田久吉が、「相州の山といえば、箱根と大山とが代表でほかに面白い山がないと思われ、とかく山の愛好家に見過ごされる傾向がある。その原因は頂上が海拔2、3千メートルとかいう高度ではないし、割合に登路が知られていないからではないか」という意味のことを書いたのは、1910（明治43）年である。武田は同じ文の中で当時の丹沢について、「信仰のため以外で登山家として丹沢山や蛭ヶ岳などに足跡を印した人を知らない」ということも述べている。その8年後の1918年に玄倉川のユーシンから熊木沢を遡って蛭ヶ岳に直登し、塔ノ岳へ縦走した戸澤英一、藤島敏男パーティ（15号参照）でさえ、「丹沢という名はかなり世の中に知られているが、山そのものについては、まだあまり知られていないようである。丹沢山塊へ登ったというような話は随分稀であるらしい」と書いている。

#### ②登山時期

明治の丹沢登山者は、岡野金次郎や小島烏水が塔ノ岳へ登った（4号参照）のが春だったことを除けば、8、9月の暑い盛り、草いきれや深いヤブに悩まされたようであるが、1918年の北澤基幸、加山龍之介パーティ（15号参照）や、前記の戸澤、藤島パーティは5月という登山に好適な季節を選んでおり、「登山時期は3月下旬から5月下旬くらいが適している」と書いている。

#### ③登山ルート

この時代の登山領域は、大部分が東丹沢の塔ノ岳、丹沢山、蛭ヶ岳を中心におこなわれているのも特色であろう。日帰りのアプローチとして南面からの登山は早くから行われたようだ。玄倉川から入山する登山者も多く、武田によれば当時は山中に製板業が入り小屋が増えたため、宿泊の便があったことによると書いている。

諸子平（ユーシンの少し下流）や熊木（熊木沢出合）付近には製板小屋や休泊所があり、炭焼小屋もいくつかあったようだ。寄村との交易路として、鍋割山稜を越える杣道がいくつかあった。熊木は玄倉村との往来より寄村との関係が深く、製板所の駄馬が村へ薪炭を運んだという。

「寄村から玄倉川上流に通じる峠径は、鍋割峠と雨山峠の間にオガラ沢乗越と鉄砲沢乗越があって計4つ、それぞれの峠径の先に製板所や休泊所があって、これらの峠径が拓かれた所以を物語っている。この峠径は生産点と生活点を結ぶ経路であった」（小木満「西丹沢の拾い話」『足柄乃文化』）。1918年の戸澤、藤島パーティは、帰路にその一つを利用している。

なおこの時代、西丹沢の檜洞丸や畔ヶ丸などは、なお秘峰として残されていたのである。



↑丹沢主脈の一部（蛭ヶ岳より南望）

訂正：第15号 右段8行目 懸命な→賢みな。

第16号 左段14行目 無案内、単独で→無案内で。

右段1行目 早川大滝側→早戸大滝側

### 《会員寄稿》

#### 『私の登山』

芦澤敏夫(No13176)

私は日本山岳会に入会をさせていただき、20年余りが過ぎました。

これまでに登った山で、印象の残る山行についていくつか触れさせていただきます。

まずは、平成 20 年に達成した日本百名山ですが、約 10 年間かけて登りました。日本百名山の登山のうち 71 座は、単独行でした。どの山も結構苦労しましたが、その中でも北海道の幌尻岳(ほろしりだけ)やトムラウシ岳は、登山時間が 12 時間以上かかりましたので大変でした。さらに、北アルプスの槍ヶ岳から、北穂高岳、奥穂高岳を経て前穂高岳、西穂高岳の縦走も困難でした。槍ヶ岳は山荘を出て小槍の脇から孫槍、ひ孫槍を経て大槍に登った時は、上も下もほとんど垂直・絶壁で肝を冷やしたものです。後で聞きましたが、危険なために登山禁止のルートだそうです。槍ヶ岳には、その後困難とされているルート 1 つの北鎌尾根ルートにも登りました。

現在の興味は日本三百名山です。NHK で田中陽希さんが一筆書きの完登を目指しておられますが、私も時間があれば登りたいと思っています。(勿論一筆書きは出来ません。)

百名山より三百名山(特に二百名山)の方が格段と困難で、百名山は大勢の方が登られる人気の山ですので比較的登山道も山小屋も整備されていますが、二百名山は、小屋も無くテント泊とか、登山道も無いので雪がある時しか登れないとか、登山時間が長いとか、さらに二百名山で最も困難と言われた北海道のカムイエクウチカウシ岳では、昨年 2 件のヒグマの被害があり、過去にもヒグマに登山者が襲われた山でした。たまたま昨年の夏に登って、ヒグマには遭遇しませんでした。台風明けの増水した沢を何度も渡渉しているうちに残念ながら同じパーティーのメンバー 1 名が眼前で滑落し、亡くなるという事故に遭遇してしまいました。

他に困難な山としては石川・富山・岐阜県境にある笈が岳、岐阜県の猿が馬場山、野伏が岳は残雪時でないと登れず、5 年越しでやっと登りました。また静岡県の大無限山や笈が岳、さらには尾瀬にありますが景鶴山も登りましたが、道迷いをしたりして 14 時間から 18 時間もかかってしまいました。

最近のコロナ騒動による外出自粛ムードや台風被害による林道や登山道の荒れた状態、さらには自身の体力とバランスも衰えて今後の登山はより困難度が増してきましたが、常に安全登山を心がけつつ、健康寿命との競争からどこまで登れるかは時間との勝負であります。



200 名山笈が岳山頂にて

## 『鎌倉ハイキング』

藤川智恵子(No16171)

この頃、よく鎌倉へハイキングに行きます。私が今までハイキングで一番多く行っているのは、鎌倉です。鎌倉はハイキングをするためのコースが豊富にあるので、いろいろなコースとりができ、その時の都合や気分でコースを長くも短くも変えられるのが便利です。横浜に住む私は、横浜の洋光台駅や金沢文庫駅から入ることが多いのですが、気軽に行けます。ずっと昔、職場の先輩に連れて行ってもらったのが初めてで、何度も連れていってもらいました。先輩は一般路以外にも、時にはわらび、蕨の臺などの山菜やキノコを採ったりできるいろいろな場所を教えてくださいました。それから月日が経ち、今では家族や友人とあるいはひとりで鎌倉の尾根や谷を歩いています。椿の花が咲く季節が特に好きで、椿の花を見て“きれい”とつぶやいてしまうこともあります。同じ道を何度歩いていてもあきないし、まだ知らない新しい道を発見するのも楽しく、この道はどこへ繋がるのだろうかと思いつつ歩を進め、ああ～この道に繋がったのかとわかった時は、“やったー”と嬉しくなります。

先日の神奈川支部鎌倉山行で、私には多くの発見がありました。山行案内を見た時、鎌倉へ行くのにどうして大船からバスに乗るのだろうかという疑問でした。当日、半僧坊下バス停で下車、そして出発の時のリーダーの言葉「今日は鎌倉を縦に歩きます」に疑問は解けました。衣張山

へ私はいつも報国寺そばの巡礼古道から行っていますので、初めての平成巡礼道はとても新鮮でした。衣張山から名越切通しへは私のお気に入りコースですが、終点は鎌倉駅です。今回、披露山から逗子海岸まで連れて行ってもらったことで私の鎌倉ハイキングの行動範囲が広がったのが嬉しいです。

これからも、見たり聞いたり感じたり探検しながら鎌倉を歩いて楽しみたいと思っています。



↑十二所神社

## 山行報告

### かながわ山岳誌 Hコース

#### 大室山

令和2年9月5日  
コース概略:新松田駅～西丹沢ビジターセンター～用木沢出合～犬越路～大杉丸～大室山～大杉丸～犬越路～用木沢出合～西丹沢ビジターセンター～谷峨駅

西丹沢V Cを出発すると、今回の目的地、大室山の山容が見えてくる。だが、頂上の稜線付近だけ雲に隠れていた。用木沢出合からは、

徐々に急登になっていく。涸沢沿いの登山道は、崩壊していて一部、新しいルートが出来ていた。やがて稜線の鞍部である犬越路に到着し、小休止。犬越路からはさらに急登となり、急登が終わった地点が、大杉丸だった。ここで三角点を、無事発見。その後は、清々しい緑の樹林と草原が続く。鞍部を通過する時は、涼しい風が吹き、思わず立ち止まってしまう。左に畦ヶ丸などの山々が見えていたが、そのうち、ガスに囲まれ、ベンチのある大室山の西ノ肩に到着した。風が無く、虫が飛んでくるので、頂上方面に少し歩いた所でランチタイム。食事後、大室山頂上に達した。相変わらずガスに覆われ、遠景は全く見えない。三角点を確認し、記念撮影をした後、下山開始。登りと同じルートで西丹沢V Cに向かう。犬越路から下っていく途中で、天気予報通り、雷鳴が聞こえ、雷雨に遭遇。だが、幸いにも用木沢出合に出る頃には止んでくれた。その後、舗装路を黙々と歩き、西丹沢V Cに戻った。(記:永井泰樹)

<参加者>永井泰樹、大槻利行、中島良行、関口由美子



大室山山頂

### かながわ山岳誌 Hコース

#### 三増峠・城山

令和2年10月24日  
コース概略 本厚木駅～上三増BS～三増峠～志田峠～雨乞山～明日原～根本登山口～城山～津久井湖観光センターBS～橋本駅

三増峠は、戦国時代に小田原北条氏と甲斐武

田信玄が戦った三増合戦の場所にある。その峠までは、三増合戦史跡めぐりハイキングコースが整備されている。



三増峠

峠から道標の無い踏み跡を尾根伝いに登り、志田峠に下るが、分岐が分かりにくい。踏み跡が不明瞭な植林帯の急斜面を下り志田峠に到着。10月下旬なのに「ヒル」の攻撃を受けた。登り返し雨乞山に出ると道標が整備された関東ふれあいの道に合流する。明日原で昼食を取り、車道を根本登山口へ進む。



城山

城山一帯は、津久井湖城山県立公園内で家族連れが多い。城山は三峰で筑井城曲輪、飯縄曲輪、鷹射場と分かれている。城山を半周して津久井湖畔の観光センターに出る。晩秋の津久井湖が青く輝いて綺麗だ。バスで橋本駅に出て散会となった。(記：田島剛)

<参加者>永井泰樹、森武昭、砂田定夫、大槻利行、葉上徹郎、中島良行、関口由美子、藤川智恵子、田島剛

## かながわ山岳誌 Lコース

### 高倉山

令和2年11月14日

コース概略：藤野駅～葛原～高倉山～天神峠～金剛山～一本松山～京塚山～大刀～藤野駅

秋晴れの紅葉を愛でながら、藤野園芸ランド遊歩道をゆっくりと歩く。野外環境芸術の「山の目」、「緑のラブレター」など自然と調和したいろいろな彫刻や作品が堪能できる。高倉山のピークは、登山道をはずれて見過ごしてしまうが、三等三角点が設置されている。金剛山は細尾根が続き眺望が良く、陣馬山・生藤山につながる尾根が見える。



一本松山山頂

一本松山は別名「こがげやま」という標識がピークにある。京塚山(石山)には、大きな岩があり、中央本線のトンネル工事の土台としたことが記されている。大刀に出る山の斜面に作られた「緑のラブレター」を真上から見る。白いキャンバスに赤いハートのレターが藤野町のシンボルとなっているが、間近に見ると印象が変わる。低山ながらアップダウンのある山域であった。(記：田島剛)

<参加者>森武昭、永井泰樹、込田伸夫、富岡一郎、大字進、石村日満子、森静子、丸山さかえ、関口由美子、藤川智恵子、田島剛



高倉山山頂

## かながわ山岳誌 Hコース

### 檜洞丸

令和2年11月28日

コース概略 新松田駅～西丹沢ビジターセンター～ゴウラ沢出会～檜洞丸～テシロノ頭～石棚山～ヤブ沢ノ頭～板小屋沢ノ頭～箒沢公園橋～谷峨駅

紅葉も終盤となる檜洞丸と石棚山稜を歩くロングコース。急登や急斜面の下りがあるが、石棚山稜は眺望が良く、大島から新島まで見えた。ゴウラ沢出会から急登が続くツツジ新道を進む。石棚山分岐から檜洞丸までは、開けた尾根の木道を歩く気分爽快な登山道である。



檜洞丸山頂

檜洞丸には登山者もいるが、石棚山稜は人気が無い。葉を落としたブナ林のゆったりとした尾根道を石棚山へと進む。ピークらしい場所はなく、枯れ草の斜面に三角点を見つけた。

ヤブ沢ノ頭から急斜面の下りや岩稜が続き注意深く進む。板小屋沢ノ頭で一息ついて、一気に箒沢公園橋まで下る。途中、クサリ場や急斜面を下るが、以前より登山道が整備されて歩き易くなった。日の入りが迫り薄暗くなった頃やっと箒沢公園橋バス停に到着した。(記：田島剛)



石棚山山頂

<参加者>永井泰樹、森武昭、中島良行、関口由美子、田島剛

### 役員会報告

#### 10月役員会

日時：令和2年10月15日(木) 19:00～20:50

場所：神奈川工科大学横浜事務所

出席者：込田支部長、大槻副支部長、永井事務局長、森、落合、田島、植木、柴山、葉上

委任状による出席：早川、青木、長島、渡辺、田中、廣岡

[報告事項]

- (1) 山行報告
  - ・9/19 仏塚山
  - ・10/10 高倉山 雨天中止

[審議事項]

- (1) 年間計画
  - ・12/5 年次晩餐会は、新型コロナの感染拡大防止の影響で中止
- (2) 山行計画
  - ・10/24 に山岳誌プロジェクトHコース三増峠・城山

- ・11/14 山岳誌プロジェクトHコース高倉山
- ・11/28 山岳誌プロジェクトHコース檜洞丸
- ・12/12 に山岳誌プロジェクトLコース鎌倉衣張山・逗子披露山

### (3) その他

- ・神奈川県山岳連盟への加盟承認  
登録会員20名、理事2名、評議員2名を届け出。年会費は13,000円+300円×20名=19,000円。入会金13,000円
- ・役員会の会議室として使用してきた神奈川県工科大学横浜事務所が12月で閉鎖。横浜駅西口の県民センターの使用を検討。Zoomを使用したネット会議についても検討
- ・支部合同会議で、各支部に「全国山岳古道」についての依頼があった。当支部としても、これに対応する体制を作っていくことにした。古道の候補についてもいくつか提案があった。
- ・本部の支部事業委員会担当副会長から、全国支部懇談会の担当依頼があり、2022年に引き受けることにした。ただし、コロナの感染状況などを考慮し、実施の可否や実施した際の規模などについて支部の意向が尊重されることが前提であることを確認することとした。
- ・森が10/17・18に北九州支部で開催される榎有恒碑前祭に参加する際の旅費を支部予算から支出することを承認。  
本人から同額の寄付を受けて今後の支部活動に生かすことにした。

## 11月役員会

日時：令和2年11月19日（木）19:00～20:15

場所：神奈川県工科大学横浜事務所

出席者：込田支部長、早川副支部長、永井事務局長、森、落合、田島、長島、葉上  
監事：砂田

委任状による出席：大槻、青木、植木、柴山、渡辺、田中

[報告事項]

### (1) 会員の異動

・支部入会：16679 松岡勝、A0347 山田美幸

・支部退会：15222 三木雅弘

### (2) 山行報告

・10/24 三増峠・城山、11/14 高倉山

[審議事項]

#### (1) 年間計画

・特に変更なし。今後の計画を確認。

#### (2) 山行計画

・11/28 山岳誌プロジェクトHコース檜洞丸

・12/12 山岳誌プロジェクトLコース鎌倉天園・衣張山

・12/19 山岳誌プロジェクトHコース柏原ノ頭・風巻

・1/9 山岳誌プロジェクトLコース枳形山

### (3) その他

・神奈川県山岳連盟への加盟について、理事・評議員・登録会員を決定。

・支部会計の中間報告の説明。今後の大きな支出としてイベント時に使用する支部名が入ったウィンドブレーカーの購入を計画し、今後詳細を検討

・120周年記念行事として実施予定の古道調査の資料が紹介。支部として年内に企画書を提案する必要がある。

・2021年からの役員会会議室として、横浜駅西口の神奈川県民センター1/21（木）、2/17（水）、3/18（木）、4/15（木）、5/20（木）を確保

## 12月役員会

日時：令和2年12月17日（木）19:00～20:40

場所：神奈川県工科大学横浜事務所

出席者：込田支部長、大槻副支部長、早川副支部長、永井事務局長、森、落合、田島、柴山、葉上  
監事：砂田

委任状による出席：長島、渡辺、廣岡、青木

[報告事項]

### (1) 会員の異動

・支部入会：16494 杉田和美、A0357 玉木美智子

### (2) 山行報告

- ・11/28 檜洞丸、12/12 鎌倉天園から衣張山  
[審議事項]

### (3) 年間計画

- ・1/30 に支部連絡会（オンライン併用）。
- ・2021 年支部総会は 5/22 を予定。オンラインとの併用も検討。総会前の講演会は砂田監事に依頼。

### (4) 山行計画

- ・12/19 に山岳誌プロジェクトHコース柏原ノ頭～風巻
- ・1/9 に山岳誌プロジェクトLコース栴形山
- ・1/23 に山岳誌プロジェクトHコース箱根白銀山
- ・コロナ感染による山行への影響について協議し、現状では、感染防止に最大限の配慮をして実施することを確認した。

### (3) その他

- ・6月役員会の会議室、6/18（金）にかながわ県民活動サポートセンター705を確保
- ・支部懇談会等で神奈川支部が着用するウィンドブレーカー購入について。50 着で約 15 万円で話を進めることに。支払いに関しては今年度の予算執行状況を勘案して来年度にまたがることを含めて検討。
- ・報酬等支払明細書提出依頼書について、執筆原稿の報酬 2 件を予定していることを確認
- ・来年度の支部事業計画書と予算書について。事業計画では、県岳連へ加盟したことを考慮して作成していくことを確認
- ・120 周年記念行事に決まっている山岳古道に関して、支部としての提示原案の説明。この案に加えて多くの案が提示され意見を受けて、調整して、本部に提示する案を作成していくことにした。

## 今後の予定 役員会

- 1月21日（木）19時～
  - 2月17日（水）19時～
  - 3月18日（木）19時～
  - 4月15日（木）19時～
  - 5月17日（木）19時～
  - 6月18日（金）19時～
- 於：神奈川県民センター

## 山行計画 かながわ山岳誌プロジェクト

日 時：1月9日（土）  
場 所：栴形山（Lコース）中止

日 時：1月23日（土）  
場 所：白銀山（Hコース）

1/23 の Hコースおよび2月以降の山行に関しては感染状況などの社会情勢を考慮してその都度決定します。

詳細については担当森武昭まで問合せください。

森武昭[Eメール]mori9620@jcom.home.ne.jp

## 支部会員動静

### 《支部新加入》

- 16679 松岡勝（2020/10 本部から）
- A0347 山田美幸（2020/10 本部から）
- 16494 杉田和美（2020/11 東京多摩支部から転入）
- A0357 玉木美智子（2020/12 無所属から転入）

### 《支部退会》

- 15222 三木雅弘

## あとがき

コロナ禍に見まわれた 2020 年から新しい年を迎えました。海外ではワクチンの開発、投与が行われ少しは明るい兆しも見えてきています。とはいうものの、今まで通りのやり方を見直されることも多そうので、登山界もどうなっていくのでしょうか。神奈川支部も設立以来 5 年が経ちました。支部報も含め新しい取り組みをしていきたいと思っていますので、皆様からのご意見をお待ちします。（や）

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長：込田伸夫

編集者：田島剛、永井泰樹、長島泰博

令和 3 年 1 月 1 日